

## 最新 家電事情

# 固定電話がなくなる？

酒井 寿紀

### 固定電話と携帯電話が統合

NTT の固定電話の加入者数は、1997 年をピークにして減り続けているという。一人暮らしの独身者などには、固定電話を持たない人が増えているようだ。ほとんどいない家に電話を引くより、そのカネを携帯電話に使った方が賢明だという判断だろう。

しかし、家でかけるなら固定電話の方が料金が安い。そのため、外出先では携帯電話を使い、家では安い固定電話を使いたい。これが一つの電話機で兼用できればなおいい。

こういう、デュアル・モードの電話機が現れた。企業用だが、NTT ドコモが2004年に売り出した「パッセージ・デュプレ」がそのはしりである。今後、家庭用のものも現れる見込みだ。イギリスなどでもこういうサービスが始まっている。

このデュアル・モードの電話機は、一般に無線 LAN で固定電話回線に接続され、携帯電話でも固定電話でも同じ番号が使える。そして、屋外で携帯電話をかけながら家の中に入れば、自動的に固定電話に切り替り、また、固定電話で話しながら家の外に出れば、自動的に携帯電話に切り替る。これは「ハンドオーバー」とか「ハンドオフ」と呼ばれている。

このように固定電話と携帯電話が統合したものは、「FMC (Fixed Mobile Convergence)」と呼ばれる。これが普及すれば、固定電話回線がなくなるわけではないが、家庭の固定電話機や電話番号はなくなっていく。その代わりに、各人

は、一生使える電話番号の「ワン・ナンバー」を持ち、一つの電話機「ワン・フォン」で、携帯回線や固定回線を意識せずに、シームレスに使えるようになる。

### その影響は？

家庭の固定電話がなくなると、例えばどのような影響があるだろうか？

現在、役所に届け出をしたり、銀行の口座を開設したりするときは、必ず「自宅の電話番号」を書かされる。自宅の電話番号はホームレスでないことの証明として使われている。携帯電話の番号ではこういう目的は果たせない。

固定電話に電話して相手が出れば、相手は自宅にいることがわかる。そこで、セールスマンは株やマンションを売り込もうとする。しかし、携帯電話の場合は、相手が会社で会議中のこともある。クルマの運転中のこともある。したがって、今までのような電話セールスは困難になるだろう。

自宅の固定電話に電話すれば、例えば入浴中などで本人が出られなくても、家族がいれば誰かが電話に出る。しかし、携帯電話の場合は、本人の代わりに出るとは少ないだろう。緊急の場合これでは困る。また、家族の誰にでもいいから連絡を取りたい場合もあるだろう。逆に、本人以外とは接触したくない人もいるだろう。そのため、例えば、緊急性を選択する機能、代理受信の機能、代理受信拒否の指定など、いろいろな機能が要求される。特許を取るなら今のうちだ。

(酒井 IT ビジネス研究所)